これだけは知っておきたい 自分のがんのこと①

名古屋市立大学病院 化学療法部
小松 弘和先生

がん診療の進歩

1

死亡別死亡率年次推移(人口10万対) 2

米国人のがんの原因

3

要因	寄与割合
喫煙	30%
成人期の食事・肥満	30%
座業の生活様式	5%
がんの家族歴	5%
ウイルス等	5%
飲酒	3%

Harvard report on cancer prevention vol. 1 1996

本邦における がん全部位年齢階級別死亡率

4

がんの増加は高齢化社会が深く関与

多段階発がん

5

多段階発がん

悪性腫瘍と良性腫瘍

6

	悪性腫瘍	良性腫瘍
自律性増殖	あり	あり
浸潤・転移	あり	なし
悪液質	あり	なし
圧迫症状	ありうる	ありうる
切除効果	様々	極めて高い
遺伝子変異	あり	あってよい
例	肺癌、大腸癌	子宮筋腫、卵巣嚢腫

がんの種類(がん種)

7

- [脳神経外科](#)
 - 脳腫瘍
 - [眼科](#)
 - 網膜芽細胞腫
 - [頭頸部がん](#)
 - 咽頭がん
 - 喉頭がん
 - 歯肉がん等
 - [呼吸器がん](#)
 - 肺がん
 - 悪性中皮腫等
 - [乳がん](#)
 - [食道がん](#)
 - [胃がん](#)
 - [大腸がん](#)
- [GIST \(Gastrointestinal stromal tumor\)](#)
 - [肝胆膵](#)
 - 肝臓がん
 - 胆のうがん
 - 膵臓がん
 - [泌尿器がん](#)
 - 腎がん
 - 尿管がん
 - 膀胱がん
 - 前立腺がん
 - [婦人科がん](#)
 - 子宮がん
 - 卵巣がん
- [皮膚がん](#)
 - 黒色腫
 - 菌状息肉症他
 - [整形外科](#)
 - 骨肉腫他
 - [原発不明がん](#)
 - [血液腫瘍](#)
 - 白血病
 - 骨髄腫
 - リンパ腫

がんは発生する臓器毎に多様な症状、治療反応性、予後をもつ

がん治療は集学的治療

10

- がん薬物療法(内科的療法)
- 外科的療法(手術、内視鏡下外科手術)
- 放射線療法(リニアックから粒子線治療)
- 緩和療法(苦痛の緩和、QOLの向上)

患者さんのがんの種類(組織型)、拡がり、体力(年齢、臓器機能)を個別的に総合評価して、単独治療、あるいは組み合わせ治療を決定する。

主な抗腫瘍薬の分類

11

○ 化学療法剤

- (1) アルキル化剤
 - (2) プラチナ化合物
 - (3) 植物由来物質
 - (4) 抗腫瘍性抗生物質
 - (5) 代謝拮抗剤
- その他

内分泌療法剤

- (1) 抗エストロゲン剤
 - (2) アロマターゼ阻害剤
 - (3) LH・RHアゴニスト
 - (4) 黄体ホルモン剤
- その他

○ 分子標的薬剤

- (1) モノクローナル抗体(高分子)
 - (2) チロシンキナーゼ阻害剤(低分子)
- その他

○ 免疫療法・BRM・サイトカイン

- t BRM
- t IFN α ・IFN β ・IFN γ
- t IL-2
- 抗PD1抗体